

# 平成22年度 病害虫発生予察情報 注意報第3号

平成22年9月17日  
島根県

キャベツなどのアブラナ科野菜やダイズ、ソバ等でハスモンヨトウによる被害が多発生することが予想されますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努め、適切な防除対策を講じてください。

1. 病害虫名 ハスモンヨトウ
2. 発生地域 県下全域
3. 作物 アブラナ科野菜（キャベツなど）、ダイズ、ソバなど
4. 発生時期 9月中旬～
5. 発生量 やや多い～多い

## 6. 注意報発表の根拠

- 1) フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は平年並～やや少ないが9月2,3半旬の誘殺数は平年より多い(表1)。
- 2) 9月中旬の夏秋キャベツでの調査では寄生株率が平年に比べて高い(表2)。
- 3) 9月中旬のダイズでの調査では白変葉の発生が平年に比べて多く、発生圃場率が高い(表3)。
- 4) 現在、老齢幼虫も散見されるが、若齢幼虫が主体であり、今後幼虫の分散とともに寄生株率の上昇が懸念される。
- 2) 今後1ヶ月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生に助長的である。

## 7. 耕種法による防除

### ダイズ

白変葉の発生に注意し、若齢幼虫を葉ごと切り取ってつぶす。

## 8. 薬剤による防除

### 1) 種類および濃度

#### キャベツ、ハクサイ、ダイコン

薬 剤 名	キャベツ	ハクサイ	ダイコン
	(収穫前日数 / 総使用回数)		
有機リン系殺虫剤			
PAP乳剤 1000倍	14日 / 2回	21日 / 3回	30日 / 2回
レルダン乳剤 25 1000倍	7日 / 4回	30日 / 2回	30日 / 2回
ホスパー乳剤 1000倍	21日 / 1回	30日 / 1回	30日 / 1回
アフェート水溶剤 1000～1500倍	7日 / 3回	14日 / 3回	-
オルトラン水和剤 1000～1500倍	7日 / 3回	14日 / 3回	-
DDVP乳剤 (75%) 1500～2000倍	3日 / 5回	7日 / 5回	14日 / 6回
トクチオン乳剤 1000倍	21日 / 2回	-	-
I GR剤			
アタプロン乳剤 2000倍	7日 / 4回	7日 / 4回	14日 / 3回
カスケード乳剤 2000～4000倍	14日 / 2回	-	-
マッチ乳剤 3000倍	7日 / 3回	-	-
ファルコフロアブル 2000～4000倍	7日 / 2回	-	-
カウンター乳剤 2000～3000倍	7日 / 3回	-	-
ノーモルト乳剤 2000倍	7日 / 2回	-	-
カーバメート系殺虫剤			
ランネート45DF 1000～2000倍	3日 / 3回	-	-
ラービフロアブル 1000倍	-	-	21日 / 2回
ラービフロアブル 750～1000倍	7日 / 4回	7日 / 2回	-
ラービン水和剤 75 1000～1500倍	-	7日 / 2回	-
デナポン5%ベイト (株元散布)	14日 / 3回	21日 / 3回	-
BT剤 (農作物病害虫雑草防除指針参照)			
ネオニコチノイド系殺虫剤			
ESL粒剤 0.5g/株 (株元散布) 定植前日～定植当日 / 1回	-	-	-
その他の殺虫剤			
アフーム乳剤 1000～2000倍	7日 / 3回	-	-
ガンバ水和剤 1500倍	21日 / 2回	-	-

トルネードフロアブル 2000倍	7日 / 2回	-	-
マトリックフロアブル 2000倍	7日 / 4回	-	-
プレオフロアブル 1000倍	7日 / 2回	-	-
コテツフロアブル 2000倍	3日 / 2回	-	-
フェニックス顆粒水和剤 2000倍	前日 / 3回	前日 / 3回	-
プレバソソフロアブル5 (散布)2000倍	前日 / 3回		
〃 (灌注) 100倍	育苗期後半～定植当日 / 1回	-	-

**ブロッコリー**

薬 剤 名	( 収穫前日数 / 総使用回数 )	
有機リン系殺虫剤		
P A P 乳剤 1000倍	31日 / 2回	
DDVP乳剤 (75%) 1500～2000倍	7日 / 6回	
I GR 剤		
ファルコンフロアブル 4000倍	14日 / 2回	
その他の殺虫剤		
プレオフロアブル 1000倍	7日 / 2回	

**ソバ**

薬 剤 名	( 収穫前日数 / 総使用回数 )	
I GR 剤		
ロムダンフロアブル 2000倍	21日 / 2回	
ロムダン粉剤 D L	21日 / 2回	
B T 剤 ( 農作物病害虫雑草防除指針参照 )		

**ダイズ**

薬 剤 名	( 収穫前日数 / 総使用回数 )	
有機リン系殺虫剤		
P A P 乳剤 1000倍	7日 / 2回	
P A P 粉剤 2	7日 / 2回	
P A P 粉剤 3	7日 / 2回	
アセフェート水溶剤 1000倍	60日 / 3回	
オルトラン水和剤 1000倍	60日 / 3回	
ダズバン乳剤 40 1500倍	7日 / 2回	
トクチオン乳剤 1000倍	30日 / 3回	
合成ピレスロイド剤 ( 農作物病害虫雑草防除指針参照 )		

I GR 剤		
アタブロン乳剤 2000～4000倍	14日 / 2回	
ノーマルト乳剤 2000倍	14日 / 2回	
ロムダンフロアブル 2000倍	14日 / 3回	
ロムダンゾル 1000倍	14日 / 3回	
ロムダン粉剤 DL	14日 / 3回	
カスケード乳剤 4000倍	7日 / 2回	
マッチ乳剤 3000倍	14日 / 2回	
ランナーフロアブル 2000倍	7日 / 2回	
B T 剤 ( 農作物病害虫雑草防除指針参照 )		
カーバメート系殺虫剤		
ラービフロアブル 750～1000倍	14日 / 2回	
ランネート 45DF 1000～2000倍	14日 / 4回	
その他の殺虫剤		
トルネードフロアブル 2000倍	7日 / 2回	
マトリックフロアブル 2000～3000倍	前日 / 3回	
フェニックス顆粒水和剤 2000倍	7日 / 3回	
プレオフロアブル 1000～2000倍	7日 / 2回	
プレバソソフロアブル 5 4000倍	7日 / 3回	

2) 散布量 10a 当たり液剤 100～300<sup>リットル</sup>、粉剤 4 kg、ベイト剤 3～6kg

3) 散布時期・留意点

現在発生が多い圃場では直ちに散布する。その後は発生に応じて散布する。系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

4) その他の注意事項

- ( 1 ) 本種は上記の作物のほか花き類、ナス、トマト、ヤマイモ、ネギ、タマネギ、イチゴ、ブドウ、カキなど多くの作物を加害する。
- ( 2 ) 老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので若齢幼虫期に重点をおいて防除する。
- ( 3 ) 施設栽培ではハウスサイド、出入り口、天窓等の開口部に防虫のネットを被覆するなど、成虫の侵入防止に努める。
- ( 4 ) 農薬使用指導を行う場合は、必ず最新の「農薬登録情報」を確認する。

9. 付 表

表 1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの雄成虫の半旬別誘殺数(頭)

調査地点	調 査 時 期									
	8 月						9 月			
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	
出雲市	本年	11	9	77	100	33	79	12	316	271
	平年	56.6	63.5	86.0	67.0	74.8	113.6	131.5	212.9	173.8
益田市	本年	0	27	193	111	76	136	58	451	255
	平年	90.8	72.6	73.6	180.3	162.0	207.4	144.3	223.9	198.2

表 2 ハスモンヨトウの発生状況(夏秋キャベツ)

調査月日	寄生株率(%)		発生圃場率(%)	
9月13日	本年	10.0	33.3	
	平年	3.3	32.1	

表 3 ハスモンヨトウの発生状況(ダイズ)

調査月日	1a当たり白変葉か所数		発生圃場率(%)	
9月13日	本年	4.2	95.0	
	平年	2.0	42.9	



図 1 キャベツ葉上のハスモンヨトウ幼虫と卵塊(右上)



図 2 ダイズの白変葉(幼虫の初期被害)